

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：林業振興費

事業名 木育拠点運営推進事業費

(森林・環境税分)

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 ぎふ木遊館 企画運営係 電話番号：058-215-1515 (内14)

E-mail: c25111@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 40,960千円 (前年度予算額：50,821千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国庫支 出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附 金	その他	県債	一 般 財 源
前年度	50,821	0	0	0	0	0	50,821	0	0
要求額	40,960	0	0	0	0	0	40,960	0	0
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- 平成24年度に策定した「ぎふ木育ビジョン」に基づき、ぎふ木育を県民運動化していく拠点として令和2年7月に開館した「ぎふ木遊館」において、あらゆる世代の県民の方が木育を体験できるように木育普及事業を推進する。
- 令和3年度は、ぎふ木育の普及と進化を進めるため、周辺施設や企業と連携した木育プログラムの実施、ぎふ木遊館への来館をキッカケとした森林総合教育センター(モリノス)への繋がりを育むプログラムの実施等、県民を都市部から森林に誘う仕組みづくりが必要である。

(2) 事業内容

①館内の木育スタッフ運用 [36,000千円]

来館者にぎふ木育を伝える木育指導者、来館者の木育とのふれあいを支援するボランティアを配置し木育を普及する。

②木育企画事業の実施 [3,800千円]

ギャラリー等を活用した県内の木工作家等の作品などを展示や来館者が楽しめる木育企画を実施するなど、来館者が岐阜県の誇る木と共生する文化を知る機会を提供する。

③企業を対象としたプログラム〔500千円〕

「企業の森」、「ワーク・ライフ・バランス推進エクセレント企業」など、森づくり、子育て等に積極的な企業と連携し、ぎふ木遊館を活用した社会人教育プログラムや保養プログラムを実施する。

④移動型木育ひろば〔660千円〕

ぎふ木遊館職員が木製玩具をもって県内のぎふ木育ひろばを巡り、遊びを通じたぎふ木育の普及啓発を行う。

(3) 県負担・補助率の考え方

「ぎふ木育」の推進に寄与するものであることから、県負担とする。

(4) 類似事業の有無 無

3 事業費の積算内訳

単位：千円

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	1,332	木育プログラム等講師謝礼
旅費	613	業務旅費、費用弁償
消耗品費	1,657	プログラム資材費等
印刷製本費	829	パンフレット等印刷費
役務費	216	郵送料等、保険料
委託費	36,303	運営体制整備等
負担金	10	
合計	40,960	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第三期 岐阜県森林づくり基本計画 (3)人づくり及び仕組みづくりの推進

(2) 後年度の財政負担

ぎふ木遊館における木育の普及のための財政負担(50,000千円程度/年)が必要

事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
常時、木育や岐阜県が多様な森林を体感できる場を提供し、体験等を通じて、森林を核とした行動・活動を始めようとする「人づくり」を行う。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 R2.8	目標 (単年度)	達成率
入館者数	-- (R)	(R)	(R)	3,831 (R2)	30,000 (R3)	% 12.8
	(R)	(R)	(R)	(R)	(R)	%

○指標を設定することができない場合の理由

(前年度の取組)

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

(前年度の成果)

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い	
(評価) ○	・ 幅広い世代が、いつでも希望するときに、『ぎふ木育』を核とした『学び』『交流・連携』『創造』『発信』のサービスを楽しむ拠点の設置
・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) —	
・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある	
(評価) —	

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 木育を県民運動化するためには、拠点整備の構想を検討する段階から県民に参画してもらうことにより、整備後の運営等に能動的に行動する・関わる人づくりを合わせて行っていく必要がある。

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 利用者アンケートや有識者等の意見を聞き、サービス向上に取り組む。
